

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”使えるICT

🌿 検索サイトを活用した調べ学習

- ・一人一人が情報を検索し、収集・整理
- ・子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する



🌿 文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- ・子供たち一人一人が考えをまとめて発表
- ・共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合い



🌿 一斉学習の場面での活用

- ・誰もがイメージしやすい教材提示
- ・一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める



🌿 一人一人の学習状況に応じた個別学習

- ・デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化
- ・様々な特徴を持った生徒によりきめ細やかな対応を行う

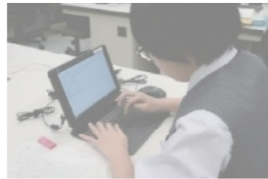


“1人1台”を活用して、教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

🌿 国語

書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立つ

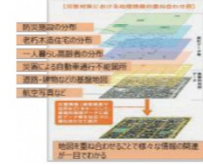
- ・文書作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言しあう
- ・文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲し、データを共有する



🌿 社会

国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する

- ・各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る
- ・分析した情報を、プレゼンソフトで、わかりやすく加工して発表

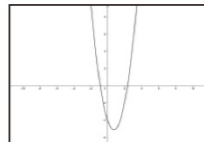


(国土交通省HPより引用)

🌿 算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する

- ・画面上に表示した二次関数のグラフについて、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察する
- ・正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う



🌿 理科

観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する

- ・観察、実験を動画等で記録することで、現象を科学的に分析し、考察を深める
- ・観察、実験のレポートやプレゼンテーション資料などを、写真やグラフを挿入するなどして、一人一人が主体的に作成する



タブレットPcを見ながら実験を振り返り

🌿 外国語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める

- ・一人一人が海外の子供とつながり、英語で交流・議論を行う
- ・ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、アウトプットの質と量を大幅に高める



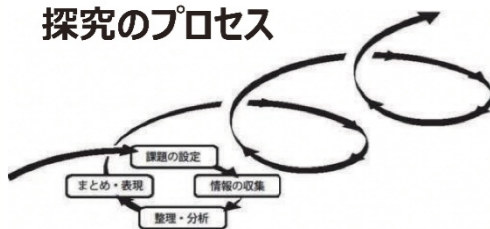
“1人1台”を活用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。

ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育 ※

※Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる

探究のプロセス



| | |
|--------|--------------------------------------|
| 課題の設定 | 実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科等、横断的な課題などを設定 |
| 情報の収集 | 文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等 |
| 整理・分析 | 統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析 |
| まとめ・表現 | 論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信 |

GIGA スクール 構想の実現へ

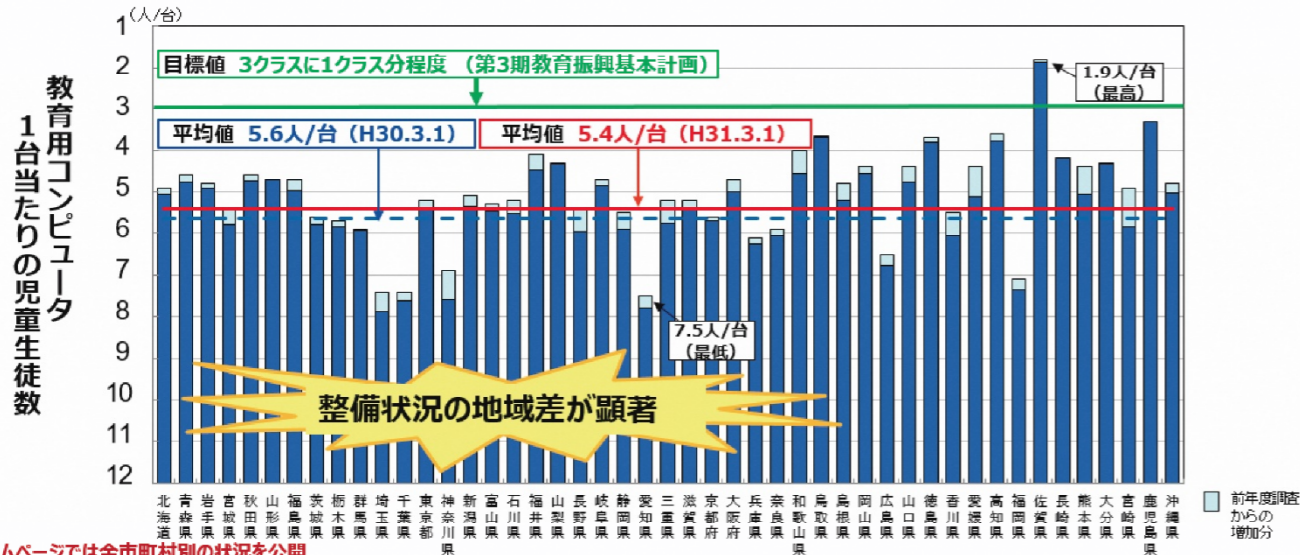
1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ



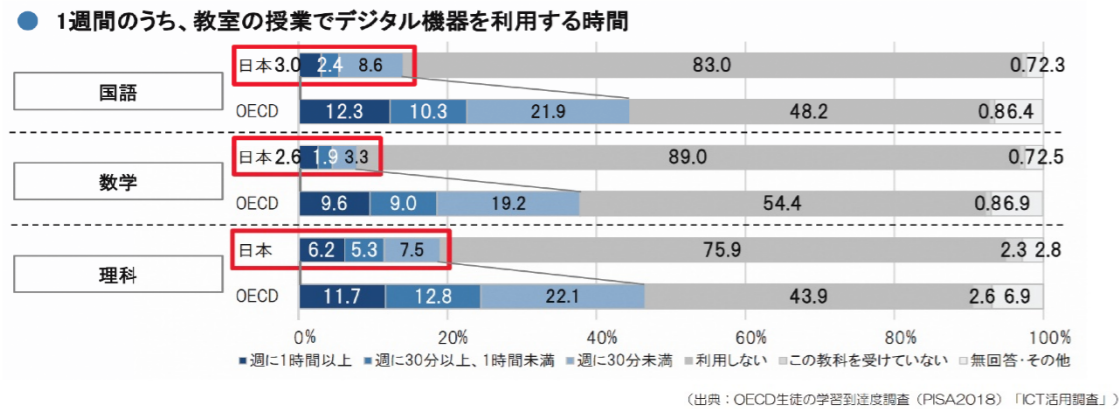
1 学校のICT環境整備状況は脆弱かつ危機的な状況

- 学校のICT環境整備状況は脆弱であるとともに、地域間での整備状況の格差が大きい危機的な状況



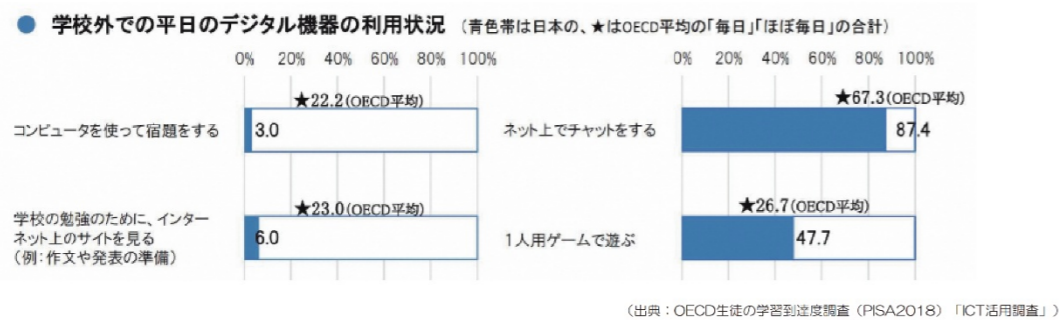
2 学校におけるICT利活用は世界から後塵を拝している状況

- 学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位



3 子供の学校外でのICT使用は「学習外」に比重

- 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上



GIGAスクール構想

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す



| | 「1人1台端末」ではない環境 | 「1人1台端末」の環境 |
|------|---|---|
| 一斉学習 | <ul style="list-style-type: none"> 教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる | <ul style="list-style-type: none"> 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる →子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に |
| 個別学習 | <ul style="list-style-type: none"> 全員が同時に同じ内容を学習する (一人一人の理解度等に応じた学びは困難) | <ul style="list-style-type: none"> 各人が同時に別々の内容を学習 各人の学習履歴を記録 →一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能 |
| 協働学習 | <ul style="list-style-type: none"> 意見を発表する子供に限られる | <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有 子供同士で双方向の意見交換が可能に →各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる |

ICTの活用により充実する学習の例

- 調査学習: 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- 表現・制作: 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- 遠隔教育: 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- 情報モラル教育: 実際に情報・情報技術を活用する場面 (収集・発信など) が増えることにより、情報モラルを意識する機会の増加